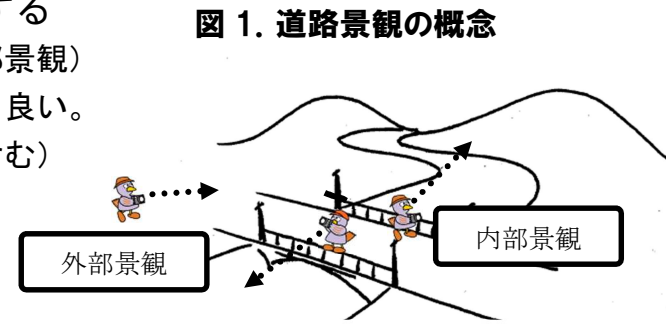


都市計画道路 浦和野田線：元荒川工区 設計業務

1 景観検討時におけるアドバイス

- (1) 内部景観と外部景観の双方の視点から確認する
 詳細設計に当たり、道路利用者からの視点（内部景観）と沿道住民からの視点（外部景観）から確認すると良い。
 また、確認には二次元CGや三次元CG（VR含む）を活用すると良い。



2 道路幅員構成に関するアドバイス

- (1) 河川側の歩道幅員狭く、住宅地側の歩道幅員を広くする
 道路幅員構成において、河川堤防上に遊歩道があることから、河川と道路の歩道の役割を再考した上で、河川側の歩道幅員を住宅地側の歩道へ寄せることが望ましい。
- (2) 住宅地側の歩道には植栽帯を設置する
 河川側は、堤防法面の草や桜といった既存の緑地が存在し、基本的に植栽を考慮する必要性は低い。上記2(1)により広くした住宅地側歩道には植栽帯ではなく植栽帯が望ましい。
- (3) 堤防の遊歩道及び法面と道路歩道は一体的整備が望ましい
 堤防の遊歩道及び法面は道路歩道と一体的な整備が望ましい。
 また、堤防法面の勾配がある区間は堤防法面と歩道のエッジ（境界）部に低木植栽を施すことで、景観的配慮及び堤防土砂の道路への流出抑止効果が期待できる。

3 植栽帯に関するアドバイス

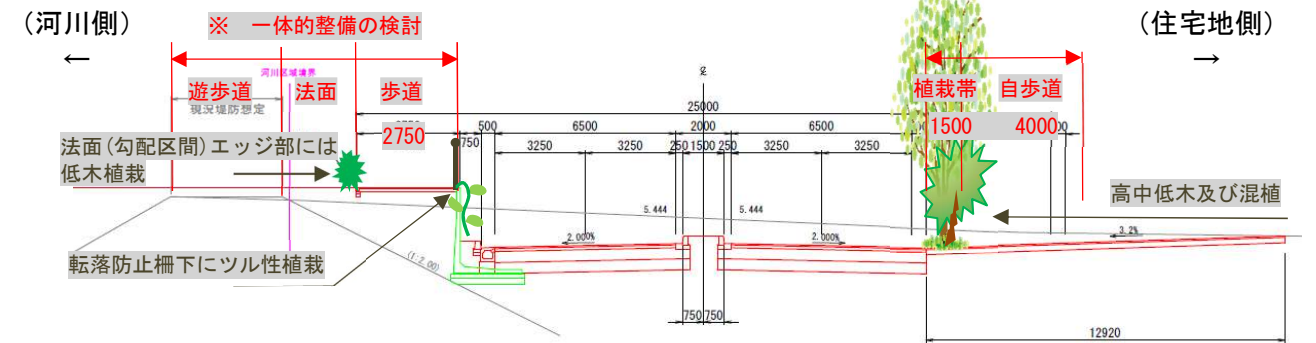
- (1) 植栽帯には高木、中低木を植樹する
 植栽帯は、高木、中低木あるいは道路境界部分へ中低木を設置することで環境施設帯の役割も持たせることができる。また、都市域の生態系維持のため混植とすると良い。
- (2) 街路樹の樹種
 環境圧に強く、かつ花・紅葉による四季の演出が可能な樹種を紹介する。
 使用する樹種は、樹木間の関係に鑑みた「植栽計画」及び線的景観を踏まえた「配植デザイン」を考えると望ましい。
- 【中央分離帯】
 ツツジ類（現況道路内の統一性を考慮）
- 【歩道植栽帯】
 高木：クロガネモチ（常緑樹、秋～冬に赤い実が付き、常緑ながら季節感がでる）
 モミジバフウ（落葉樹、紅葉が美しく都市軸道路として演出可能。落葉処理が必要）

コブシ（落葉樹、春先に白い花が咲く。桜がなくなる分、春先の演出に役立つ）
 ハクモクレン（落葉樹、春先に白い花が咲く。コブシより大ぶりの花）
 低木：ガマズミティマス、ハクサンボク、ヒメシャリンバイ等（花木）
 中木※1：ムクゲ（落葉樹）やハナカイドウ（落葉樹）、ハナズオウ（落葉樹）、カラタネオガタマ（常緑樹） ※1. 高木とのバランスの検討が必要。

【堤防境界部】

つる性植物：ムベ、テイカカツラ、サルトリイバラ
 環境圧につよい草本：ポリゴナム（ヒメツルソバ）
 低木：アセビ、ヒメシャリンバイ

図2. 道路幅員構成例



4 色彩及び光源等に関するアドバイス

(1) 自転車歩行者道の区分について

自転車歩行者道の区分については、人工的な色（例：青色等）を使用せず、素材の色を活かし区分すると良い。
 （例：アスファルトをブラスト処理し色を変化させる、境界を破線表示する、ピクトグラムは白を使用する等）

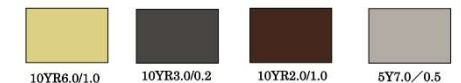
図3. 自転車歩行者道の区分事例



(2) 道路附属物の色彩

街路灯等の道路附属物は、目立たせたいサイン表示以外は、背景に溶け込む色彩を基本とする。植栽帯や樹木付近の場合はダークブラウン（10YR 2.0/1.0）、建物付近はグレーベージュ（10YR6.0/1.0）、橋桁などコンクリート色に合わせる場合はコンクリートグレー（5Y 7/1）等、風景に馴染む色彩とすると良い。

図4. 色見本 「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」基本色



(3) 街路灯の光源

堤防の桜や植栽帯のみどりが本来の色で見えるよう、光源は3,000ケルビン程度の演色性の高い光源を使用すると良い。LEDを使用する場合は、フードを用いる等まぶしくない工夫をすることが望ましい。